

第6回リハエ ミライ・アッセンブリー「車いすや電動車いす、福祉用具を選定・入手するための制度としくみを学ぶ」参加報告

阿部 琴羽

明星大学 人文学部 福祉実践学科

1. はじめに

2024年12月1日に開催された「第6回リハエ ミライ・アッセンブリー」に参加させていただいた。福祉用具選定・入手の方法や、制度内容などについて興味深い学びを得たため、簡易電動車椅子ユーザーとしての自身の視点も活かしつつ、ここに報告させていただきます。

2. 概要

日時：2024年12月1日（日）10:00～12:00

会場：オンライン（Zoom）

2.1 プログラム

- ① イントロダクション 5分
- ② 話題提供1「福祉用具の選定・入手のための福祉制度の知識」井村保氏（中部学院大学）40分
- ③ 話題提供2「車椅子・電動車椅子の補装具費支給制度改正のポイントと実際」芝崎泰造氏（日本車椅子シーティング協会）40分
- ④ 意見交換 30分

2.2 内容

第6回リハエ ミライ・アッセンブリーは、日本リハビリテーション工学協会の中中部支部の協力のもと行われた。6回目の今回はオンラインで開催され、チャット機能を利用した質疑応答も行われた。以下に私の考え・思いを述べさせていただきます。

まず、「健常者が作業内容に合わせて姿勢を変えられるように、車椅子利用者であっても生活状況に適した目線の位置で活動できるよう車椅子自体を工

夫できる必要性を感じている」という話が印象的だった。車椅子を利用していれば当前に損なわれがちな人間らしい生活を、用具の進化によってカバーしている様子が伺えて感激した。機能が追加されても、安価に制作できる工夫もなされていると知った。

質疑応答では、車椅子業者が要支援者にとって必要なニーズを、短時間で聞き出すことの重要性を学ぶことができた。業者が少ないことで、1店舗が支援すべき地域が広いこと、人件費の課題、人手不足も問題となっていることがわかった。地域差を感じさせないアセスメント力が必要であることがわかり、業者が見ている着眼点なども学ぶことができた。

公共施設へのリフト取り入れについては、私は賛成である。用具があることで、要支援者それぞれが自立して生活できる場面が増えるのであれば、設置は有意義であると考えます。しかし、機械操作をする上では危険性も伴うだろう。誰でも安全にわかりやすく利用するための工夫が、必要であると考えた。色彩やイラストでデザイン性を高めることも、対応の1つとなると考える。

3. おわりに

今回の講話では、根本的な仕組みや出来上がったサービスを知り、広まりの悪い最新の情報をいかに外に出していくか、考えるべきだと痛感した。ここまでお読みいただきありがとうございました。